宗教新聞
発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2020

購読料（税込）
1部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

伊弉諾神宮で御田植祭

早乙女と児童が神田に早苗を

兵庫県淡路市

梅雨の晴れ間となった6月20日、兵庫県淡路市多賀にある伊弉諾（いざなぎ）神宮（本多孝圭宮司）で、五穀豊穣を祈る恒例の「御田植祭」が斎行された。早乙女と児童らによって植えられた稲は氏子によって育てられ、10月の「抜穂（ぬいぼ）祭」で収穫され、稲束を伊勢神宮の神嘗祭に奉納するほか、伊弉諾神宮の祭儀で神前にお供えされる。

苗を植える早乙女と児童たち＝6月20日、兵庫県淡路市の伊弉諾神宮

神前に供える米を育てる「御斎田」（約240平方メートル）で田植えを行ったのは、白装束に赤いたすき、笠をかぶった早乙女姿の県立淡路高校（旧淡路農業高校、同市富島）の女子生徒や同宮いざなぎ會の女性ら20人と地元の保育園児ら7人。氏子や保護者らが見守る中、本名宮司が打つ太鼓の音に合わせ、早苗を数本ずつ手に取り、丁寧に植え付けた。

同日は午前9時から神事が執り行われ、巫女2人により淡路神楽が舞われた後、拝殿前のしめ縄が張られた境内で、早乙女たちが苗を手に、「わかなへ うえほよ…」と神職らが歌う「古謡御田植唱」に合わせて、「御田植踊」を奉納した。

その後、神職と氏子がかごで担ぐ早苗を先頭に、列を組んで神宮近くの御斎田に移動。代かきされた御斎田で、最初に本名宮司が苗を植え、続いて早乙女が横一列に並び、張られた縄の目印を目安に、宮司の打つ太鼓の音に合わせて「イセヒカリ」の苗を植えた。

イセヒカリは三重県の伊勢神宮の神田で発見された、自然交配によるコシヒカリの突然変異種で、神聖な稲として神事などで使われている。コシヒカリより丈が低く、風雨に強い。苗は本名宮司が神事としてもみをまき、苗代で大切に育てられてきたもの。

御斎田のほぼ半分まで植えたところで法被姿の児童が田んぼに入り、早乙女に助けられながら、苗を植えていった。泥の田んぼに入るのにためらう児童もいたが、やはり女児のほうが積極的、見守る保護者らは昔の田植えの思い出など懐かしそうに話し合っていた。

最初に苗を植える本名孝至宮司

新型コロナウイルス感染症のため多くの祭りが中止や縮小になる中、例年通りの斎行とした本名宮司は「ごく当たり前のことだ。その時々の判断だが、今のような事態だから自粛しようという考えは全くない。神様のことはより丁重にしっかり行うのが大原則で、今こそ世の中が平安になるよう祈りの心で務めたい。それが神道で宮中祭祀の原点でもあり、極論を言うと自己救済はなく、互いに祈り合うのが日本人だ。早乙女が集まるか心配したが、20人以上の応募があり、お断りした人もいた」と語った。

「御田植踊」の奉納

『日本書紀』『古事記』には、国産み・神産みを終えた伊弉諾尊が、最初に生んだ淡路島多賀の幽宮（かくりのみや）に鎮まったとあり、それが同宮の起源とされる。淡路の枕詞は「御食（みけ）向かふ」で、古くから海と山の産物に恵まれ、宮中に食物を献上してきた。同宮の御田植え神事は第二次世界大戦の影響で昭和16年以降途絶えていたが、古老らの記憶をもとに平成3年に再現された。

「50年途絶えた唄と踊りの復活は困難を極めた。老婦人が少女の頃の記憶を思い出し、踊りの師匠が復元した。すると、奈良の春日大社のおん田植唄とよく似たもので、大和朝廷との深いかかわりを再認識した」と本名宮司。

島には海人族の遺跡が多くある。2015年には南あわじ市で最古級の銅鐸7個が見つかり、音を鳴らすための舌（ぜつ）（振り子）が入れ子になっていたことから、同市は弥生時代の銅鐸の音を再現している。鐸の読みが「さなき」でイザナギに通じることから本名宮司は、「伊弉諾尊は海人族の頭領だったのではないか」とも語る。

社説

私の中に宗教を土着させる

万葉文化論が専門の上野誠奈良大学教授は、『日本人にとって聖なるものとは何か』（中公新書）で、「多神教とは、多くの神々がいる宗教ではなく、無限に神が生まれ続ける文化構造と考えねばならない。それは、偉大な神ではなく、『小さき神々』と呼び得る神であろう」と述べている。モノにも心があるというのが古代思考であった。

そうした心性を持つ日本人が仏教を受容したので、「悉有仏性」「山川草木悉皆成仏」という日本的仏教が生まれた。悉有仏性は涅槃経の言葉で、インドで誕生した大乗仏教の思想にあるのだが、それは日本的風土、日本人的心性に土着することで実現したと言えよう。渡来した仏教を日本人が主体的に選択し、独自の発展を遂げてきたのは、大陸から海を隔てた島国という地理的条件が大きい。

習合して土着する

空海が入唐してから密教の灌頂を受け、帰国するまでを小説にした『曼荼羅の人』（集英社文庫）で、陳舜臣さんは「華厳思想のあと、仏教の最後の形として密教があらわれたのは、インドの仏教人の反省が基本になっていたのだ。民間の信仰をはなれることによって、インドうまれの仏教は世界宗教となった。ところが、それによって、土着性をも失ってしまったのである。迷信、俗信をまじえた民間信仰は、その平面では放棄されても、高い段階では吸収されなければならない。いわば『止揚』であることを要した。仏教が土着の信仰と結びつくことで、密教の形をとった。天竺僧たちによって伝えられた密教は、恵果のころになって、ようやく唐で中国的な展開をしたのである。中国の民間信仰――それは道教とかかわり合う要素が最も多い」と述べている。

山林修行をしていたとされる。吉野の金峰山や四国の石鎚山などで修行を重ね、『大日経』をはじめ密教経典に出会い、一沙門から「虚空蔵求聞持法」を授かっている。空海の周りには役行者ゆかりの修験者や、行基集団などを形成していた聖たちがいて、彼らとの交流から日本人の民間信仰を吸収したのであろう。

山本七平さんも、日本に渡来した仏教はすでに中国で道教と習合していた、と述べている。それゆえ、日本古来の神道とも習合しやすかったのだろう。中国経由の仏教を、日本の風土と日本人の心性に土着させた一人が空海であった。

空海は18歳で入った京の大学寮での勉学に飽き足らず、19歳を過ぎた頃から入唐の31歳までの中心に大日如来があるように、密教の核心は宇宙の本体である大日如来との一体化にある。人格性を帯びた仏なので、思索や実践を通して一体化しやすい。修行を通し確信したからこそ、空海は即身成仏を説いたのである。

特に修行をしない一般人として、これをどう考えればいいのであろう。宇宙は自身を客観的に認識するために人間を生んだという考えがある。宗教によって説き方は違うが、人が宇宙（自然）から生まれ、宇宙に帰っていくのは間違いない。だとすれば、即身成仏は生身をもって宇宙と一つになることではないか。平たく言えば、宇宙の現れである周りの事物との一体化、心の交流で、それを日常の暮らしの中で探求するようにしたい。

原恩主義の日本人

上野教授は前掲書で、キリスト教の原罪主義に対比して、日本人は原恩主義であるという。生まれてきたこと、存在することへの感謝からすべてが始まる。そこには自他の区別がなく、周りの事物を自己の人格に包摂しようとする。合理主義の現代社会が直面している格差や分断による破綻を恩想と実践が、そこから出てくるのではないか。

儀礼や集会が自粛される今は、宗教を私に土着させるチャンスと言えよう。人生観や死生観として自身の中に定まってこその信仰であり、それには古代からの日本人の心性を学びつつ、自己の心の歩みを振り返る必要があろう。それがもたらすのは人間としての成長と喜びである。

新型コロナ後の新生活でお寺はどうなる

瑞田信弘・浄土真宗本願寺派称讃寺住職に聞く

少子高齢化や未婚者の増加で参加者を身近な人に限る「家族葬」が増え、葬式の参列者が減っていたが、新型コロナウイルスの感染防止対策がそれに拍車をかけ、このままでは存続が危ぶまれる寺院も出る状況になっている。著名人の法話講演や終活講座など地域活動にも力を入れている浄土真宗の瑞田（たまだ）信弘師に対応を伺った。（多田則明）

――称讃寺でも4月10日、宗教学者の島田裕巳さんを迎えての春の永代経法要の「お寺de講演会」が中止になりました。

島田さんは琴平での「四国こんぴら歌舞伎大芝居」も見るつもりでしたが、講演会の中止決定後1週間ほどでそれも中止になり、来年に延ばしました。9月30日には毎年恒例の「心と命のフォーラム」を総本山善通寺の遍照閣で、解剖学者の養老孟司さんと精神科医の香山リカさんを招いて開く予定でしたが、遍照閣がコロナ禍で来年3月末まで閉鎖になり、これも来年に延期しました。

お寺は大変です。大正大学地域構想研究所・BSR推進センターが行った「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」によると、葬儀の会葬者数が減った（89％）、法事の中止や延期（88％）、法事後の会食の減少（68％）など影響が出ています。細々と続いていた行事がこれで終わる可能性をひしひしと感じている」法要のオンライン化なども検討しているが、檀家の多くが高齢者なので対応が難しい」などの声もあり、まさに存続の危機に瀕しています。BSRは「仏教者の社会的責任」という意味です。

――持続化給付金の支給は？

宗教法人は事業税を納めていないので無理です。

――家族葬の広まりで、それでなくても参列者は減少していました。

家族葬は、参列者は身近な家族、親族に限り、仕事上の義理での参列はやめるという趣旨でしたが、コロナの影響で参列者が家族だけ5人くらいになったりして、広い会場にバラバラに座っています。しかも、高松市が火葬場に同行できる人を5人に制限したので、僧侶が行くと親族は4人になります。他の人は葬儀会館で2時間待つしかないので、ご遺骨を迎えての繰り上げ初七日をしない例も増えています。自宅で本当の初七日をするといいのですが、そのままのことが多い。告別式の後、火葬場で収骨して、そのまま解散という葬儀が増えています。葬儀をしないでご遺体を火葬場に運ぶ直葬も多くなりました。

この傾向が続くと葬儀社をはじめ仕出し屋や生花店など関連の業種も仕事が減ってしまいます。僧侶も3人で勤めていたのが2人か1人になり、浄土真宗では導師の横に役僧が付くのが普通ですが、ほぼ1人になっています。檀家が少なく、ほかの寺の葬儀に呼ばれるのを生業にしていた寺では収入が途絶え、存続の危機に瀕しています。

ある料理店で感染者が出た原因が、数日前、店の人が法事に出たからというニュースが流れると、いくつもの法事がキャンセルされました。農村では田植えの繁忙期を避けるため5月の連休に法事をする家が多いのですが、そのニュースが連休前だったため、連休中の法事もほとんど中止になりました。

三回忌、七回忌は家族だけでもしていたのが、十三回忌が境で、それ以降はやめる例が増えています。こうした生活様式が根付いていくとすれば、次の世代に法事文化が引き継がれなくなり、いずれは仏事が消滅し、運営できなくなる寺が増えるでしょう。それでなくても、後継者がおらず、廃寺になった寺が近くに数件あります。（5面に続く）

瑞田信弘師

灯

「主よ、すべてに心を配る神はあなた以外におられない。だから、不正な裁きはしなかったと、証言なさる必要はない。あなたの力は正義の源、あなたは万物を支配することによって、あなたの全き権能を信じない者にあなたは御力を示され、知りつつ挑む者の高慢をとがめられる。力を駆使されるあなたは、寛容をもって裁き、大いなる慈悲をもってわたしたちを治められる。力を用いるのはいつでもお望みのまま。神に従う人は人間への愛を持つべきことを、あなたはこれらの業を通して御民に教えられた。こうして御民に希望を抱かせ、罪からの回心をお与えになった。」（知恵の書12：13、16―19）

イスラエル民族は、全てのものの創り主なる神の統治を願い、それに服することを善としてきた。人間的な考えや策を弄しても解決の糸口が見えない事柄に対して、心を正して天の声に耳を傾ける姿勢が大切だと教える。誠心誠意の努力をなしながらも人間を超えた方への信頼と敬意を貫くことがあらたな道を開く鍵なのかもしれない。（I）

天地

栗島に行ったのは、古い友人の父親が、島にあった海員学校の卒業生だったから。昨年、84歳で亡くなる前、小豆島オリーブ公園の近くにあるグループホームで話を聞いた。島は海で世界につながっていて、彼も外洋航路で世界各地を訪れていた。私は同じ香川県でも内陸の農村で育ったので、人生行路の落差に驚いた▼栗島の浜で会った老人も同じで、兄弟のうち一人は船員になるのが普通だったという。定年で船を降り、島に帰ると、待ってましたとばかり地域の活動に組み込まれたのも、友人の父と同じ。船で培った能力が地域に生かされたのである▼海員学校は今、海洋記念館として保存され、訓練を受ける少年たちの写真が展示されていた。古くは源平合戦で活躍した塩飽水軍の島でもあり、屋島から平家軍と逃れてきた安徳天皇も足跡を残している▼粟島から須田港に帰り、三豊市の知人の案内で、藤原宮の造営に瓦を提供した窯跡を見学した。藤原宮はわが国初の最先端建築で、瓦を焼くため百済から瓦博士が招かれている▼三豊市では古くから須恵器を焼いていたので、そこにも瓦博士がやって来て、窯を築き、焼き方を教えたという。出来上がった瓦は瀬戸内海から大和川を上り、藤原京に運ばれた。これも水運のなせる歴史で、水運史は歴史の大きな柱である▼メディアで紹介され全国に有名な「天空の鳥居」「父母ヶ浜（ちちぶがはま）」は本紙ブログにアップしましたのでご覧ください。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間　■氏名　■郵便番号　■住所
■連絡先電話番号（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料　年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円（税込）
株式会社ヒカルランド
〒162―0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852　FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製　232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社　販売企画部
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み　FAX:03-3578-3075

日本宗教の闇
室生 忠著　四六判・520頁　定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305　FAX078（801）0006

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
（定価：本体2000円＋税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344　Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋靈 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁　定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市淵野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558　FAX042（754）1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著　A五判　五八〇頁　本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編　B六判　二九〇頁　本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000　Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com